

神は曲がった線を用いてまっすぐに書く(上)

SOS: インサイダーQ²が、米大統領について一連の重大なメッセージを伝える

「ポルトンの任命は、トランプがゆすられている証拠」——Q²

【訳者注】始めに断っておくと、この表題 (God writes straight with crooked lines) は、文中から取ったもので、この副題が元のタイトルである。これは、私が人生で出会った最も胸を打たれる言葉の一つである (ポルトガルの諺らしい)。神は意図的に悪から善を引き出す、という意味であろう。このような悪で固められた世界を研究し、警告するすべての人々が、納得するに違いない。我々のなすべきは、この神の意図を理解して行動することであろう。

このQ²を名乗るインサイダーの緊急の警告は、深刻で、かつ、いくつも謎を解いてくれる。トランプはやはり、最初から、かなり汚い下腹の弱点を握られていた。それにしても、就任直後から今日までの激変はあまりにも極端で、我々は彼の意味でないものを感じていた。やはりそうだった。極端に言えば、トランプに限らず、ケネディ以後の米大統領は、すべて、影の世界政府 (強力にイスラエル) の奴隷のようなものだった。手っ取り早く知りたい方は、(下) の最後の注を読んでいただきたい。この春に米露が、直接衝突に突入する確度は、多くの人の予測するように、かなり高いと思われる。せめてテレビなどで、わかり切った反プーチン宣伝のフェイク画像を流すなど、恥ずかしいことはやめるべきである。

SOTN (State of the Nation)

March 24, 2018



SOTN 編集者ノート：

この代替メディアを読んでいる多くの方々は、SOTN が 2010 年から、権威ある、高度に信頼できるソースから、確実な情報を受け取っていることをご存知だろう。続く内容は、事情をよく知り、かつ大きな勇気を持つ、高い立場にある、もう一人の優れた愛国者からのものである。これ以上に人を動かす情報はないだろう。

この深層インサイダーの「情報ブリーフィング」は、これまで未知だった、自分を Q² (Q Squared) と呼ぶ、ある人物から転送されてきた。(Q² は、Q でも QAnon でもない。彼らは全く別の情報源である。) 彼らが SOTN を選んだのは、疑いもなく、我々がジョン・ボルトンについて書いた、これまでの記事のためである。それは次のような、トランプがこの名うてのネオコン戦争屋を、国家安全保障アドバイザーに任命した後に、SOTN に載った記事のためである。これを列挙すれば――

「ジョン (“イラン爆撃”)・ボルトン、ホワイト・ハウス内の新しい戦争屋」

<http://stateofthenation2012.com/?p=97203>

「トランプは、ネオコン戦争屋のジョン・ボルトンの任命によって、彼の基盤を裏切り、約束を破り、評判を台無しにした」 <http://stateofthenation2012.com/?p=97150>

「前代未聞：ジョン・ボルトンについて話す、冷酷なネオコン・戦争屋がここにいる」

<http://stateofthenation2012.com/?p=97198>

「ジョン・ボルトンは、国家安全保障への脅威だ (ビデオ)」

<http://stateofthenation2012.com/?p=97196>

「なぜロジャー・ストーンは、臆病タカ派ジョン・ボルトンの任命を支持するのか？」

<http://stateofthenation2012.com/?p=97176>

「新 NBC アドバイザー、ジョン・ボルトン：ブッシュ政権のタカ派中のタカ派？」

<http://stateofthenation2012.com/?p=97173>

「荒れ狂うタカ、ジョン・ボルトン：トランプの新しい国家安全保障アドバイザー」

<http://stateofthenation2012.com/?p=97167>

「やあ、アメリカ・・・俺は帰ってきたぜ！――ジョン・ボルトン」

<http://stateofthenation2012.com/?p=97162>

「NSA 仕立てのジョン・ボルトン：トランプの最も破局的な任命」

<http://stateofthenation2012.com/?p=97158>

「国家安全保障アドバイザーに指名されたジョン・ボルトンの発言」

<http://stateofthenation2012.com/?p=97145>

さて、Q²からの本物の裏話を読んでいただく——適宜、原文は編集された。

Q²メッセージ1:

トランプはゆすられている——今が山場だ！

まず知るべきは、彼の選挙勝利は、イスラエルの支援があったからだった。

イスラエルは、ホワイトハウス内に、キリスト教徒シオニストを必要とした。

それには多くの理由がある。例えば：

- * イスラエルがイランを封じ込めるには、米軍が必要だ。
- * トルコは、NATOゲームをするには、もはや当てにできない。
- * 「拡大イスラエル」計画が、プーチンによって、ひどく損なわれた。
- * シリアを通すパイプラインが止まった。
- * ネタニアフが除かれる恐れが深刻化。
- * ロシアのプレゼンスが、北レバントを圧している。
- * イスラエルは、シリアの Tartus のロシア海軍基地を除きたい。
- * 中東の地政学的チェスゲームが完全失敗。
- * イスラエル・ファーストと言う者だけが、テルアビブのために、それをやってくれる。

シオニスト、ジョン・ボルトン登場——

次いで、ネオコン強硬派、マイク・ポンペオ、

および、CIA の拷問クイーン、ジーナ・ハスベル、

その他、多くの強制された（そして悲惨な）任命が、トランプによって行われた。

西側の邪悪な魔女、ニッキ・ヘイリーは、中でも最悪。

彼女を国連米大使に選んだのは、誰か、当ててみよ。

まさに、イスラエルだ！

——メッセージ1の終わり。

Q²メッセージ2:

2番目に、トランプは下腹に弱点があることを知れ。

そうでないことがあり得ようか？

ニューヨークの建築をやってきた者なら誰だって、

カジノの所有者や経営者なら、

美人コンテストのプロモーター（ミス USA、ミス・ユニバース、ミス・ティーン USA）、

そしてグローバルなゴルフ・コースの開発者など、誰だって弱点をもつはずだ。

弱点だらけだろう！

ラスベガスのギャンブル王、Steve Wynn を見よ。

新しい企画ごとに、トランプは、“途方もない”（彼の好きな言葉）弱点をさらした。

特に彼のタイプの、空っぽの美人に対して。

しかし、特に、**特別に**——モサドの色仕掛けに対して。

イスラエルの秘密警察ほど、それを好んでやる者はいない。

これが、ルウインスキーを使ってクリントンを引っかけた、彼らのやり方だった。

モニカは古典的なモサドの色仕掛けだった。

ネタニアフは、クリントンに、イスラエルのスパイ、ジョナサン・ポラードを釈放してほしかった。

しかし、彼は動かなかった。そこで彼らは、このホワイトハウスのスキャンダル事件で、彼を罠にかけた。

そして、曲がりくねった弾効が始まった。

——メッセージ2の終わり

Q²メッセージ3：

就任初日から、トランプは、モサドが彼のあらゆる汚い秘密を、知っていることを知っていた。

それが実に多い！ あるものは大統領職にとって危険な内容だ。

最も危険なものが、「ダモクレスの剣」のように、彼の頭上にぶら下がっている。

ある不気味な材料として、選挙期間中、警告として、一般に公開されたものがある。

イギリスのタブロイド版記事に、“レイプ”と言われるものさえある！

その物語に限っては、完全なでっちあげかもしれない。しかしそれは、いまだにネット上にある…

これは、モサドのゆすり専門家が、いつでも騒ぎ立てることができる。

今、X級の内容が、彼の従順を強制するために、暴露されようとしている。

それは少しずつやってくる。

あらゆるカネ目的の女たちが、次々に、特定の時期に前面に現れる。

あらゆる sayanim（米国内のイスラエル・スパイ）や、モサドの要員が、ある結果を手に入れるために、圧力を強化する。

最初は、主たるメッセージは、トランプが本当は誰のために働いているのかを、彼に思い出させることだった。

しかし今、本当のゲームが始まっている。

就任後、月が過ぎるごとに、アメリカ大統領は、彼の使命を果たさねばならなくなる——イ

スラエルのために。

その使命は、キリスト教シオニスト（本物でも、そう思われているのでもよい）でないと、果たすことができない。

トランプは、その役を果たす、**非常に**長い、家畜の首ひもを与えられた。彼は本当はナショナリストである。

このようにして、彼を操作する者たちは、彼が愛国者を囲い込むだろうと知っていた。そしてそのようになった。

今、彼らは、彼が筋金入りのタカ派どもの政権を、作ってほしいと思っている。そして彼はその通りにしている。

これはすべて、国家を戦争状態に追い込むためである。

メッセージ3の終わり――

Q²メッセージ4：

ストーミー・ダニエルズ（ポルノ女優）事件は、さまざまな理由で、メディアのスポットライトの中に保たれている。

大衆は、“女と遊ぶ夫トランプ”というイメージに慣らされている。

現在、“今年のプレイメイト”カレン・マクドゥーガルがいる。

イスラエルの心理作戦の指揮者が望みさえすれば、彼らは、もっと多くの者たちを繰り出すことができる。

それが彼らのやり方だ。

彼らは、犠牲者を追い詰めるために、悪いうわさの記事を流し続けている。

彼らは、彼の片方の靴がいつ落ちるか決して知らない。

しかし、トランプの場合には、彼らは必要な品物は全部そろえている。

最も犯罪を確実にする証拠は、本物・にせ物を含めて、彼の大統領職を終わらせるだろう。

そして彼はそれを知っている。

これが彼らの、世界中の政治家を、ひもで吊るしておくやり方だ。

トランプは全生涯のうちに、より若い女性と、多くの交渉をもってきた。

彼は、無数の危ない立場に――文字通りにも、比喩的にも――身を置いてきた。

モサドが、彼のファイル全体を所有している。

おわかりか？

メッセージ4の終わり――

Q²メッセージ5：

忘れてはいけない——トランプは、イスラエルがなかったら、ヒラリーを負かすことはできなかった。

イスラエルは、手柄にせよ、犯罪にせよ、もっと多くのものをコントロールしている。全国規模の選挙の操作などは、これらのサイバー・ジャックたちにとって、朝飯前である。ひとたび彼らがトランプを、ホワイトハウスに入れてしまえば、他に何が期待できるか？戦争…さらなる戦争…特にイスラエルのための。

戦争屋のリクード党は、イランが滅びるまでは、気が休まらないだろう。

そして、それができるのは米軍機械だけだ。

今あなたが耳にしているのは、アメリカ全土における着実な戦争のドラムである。

戦争タカ派たちが、攻撃を指導するために、トランプによって引き戻されている。

これらは、W・ブッシュの下、臆病タカ派と同じ者たちだ。

彼らは、気に入らないアメリカの戦争は、一つも見ることがない。

もちろん、彼らの誰一人として、戦争で戦ったこともない。

トランプは、戦争へのこの加勢のために、あらゆる国防予算にサインしている。

彼は、アメリカの軍事力を強化する必要性を、毎週、口にしている。

彼は就任以来、海軍将官との重要な会見を重ねてきた。

そのいくつかは、現実の仕事であることさえある。

その多くは、あなたが全く知らないものだ。

またあなたは、西ウィング（ホワイトハウスの重要な一角）のどの場所で、仕事がなされるかも知らないだろう。

この行政部門全体が、戦争のために硬化している。

中東における地域戦争でなければ、第3次大戦のホットな相に突っ込むだろう。

これらの戦争計画のすべては、NATOと協調して実行される。

イギリスが、いつものようにリードするだろう。

また、EUの選ばれた国家が、準備態勢に入っている。

独、仏、オランダ、ベルギー、イタリア、…いつもの軍隊のすべてだ。

メッセージ5の終わり——

——以下、(下)